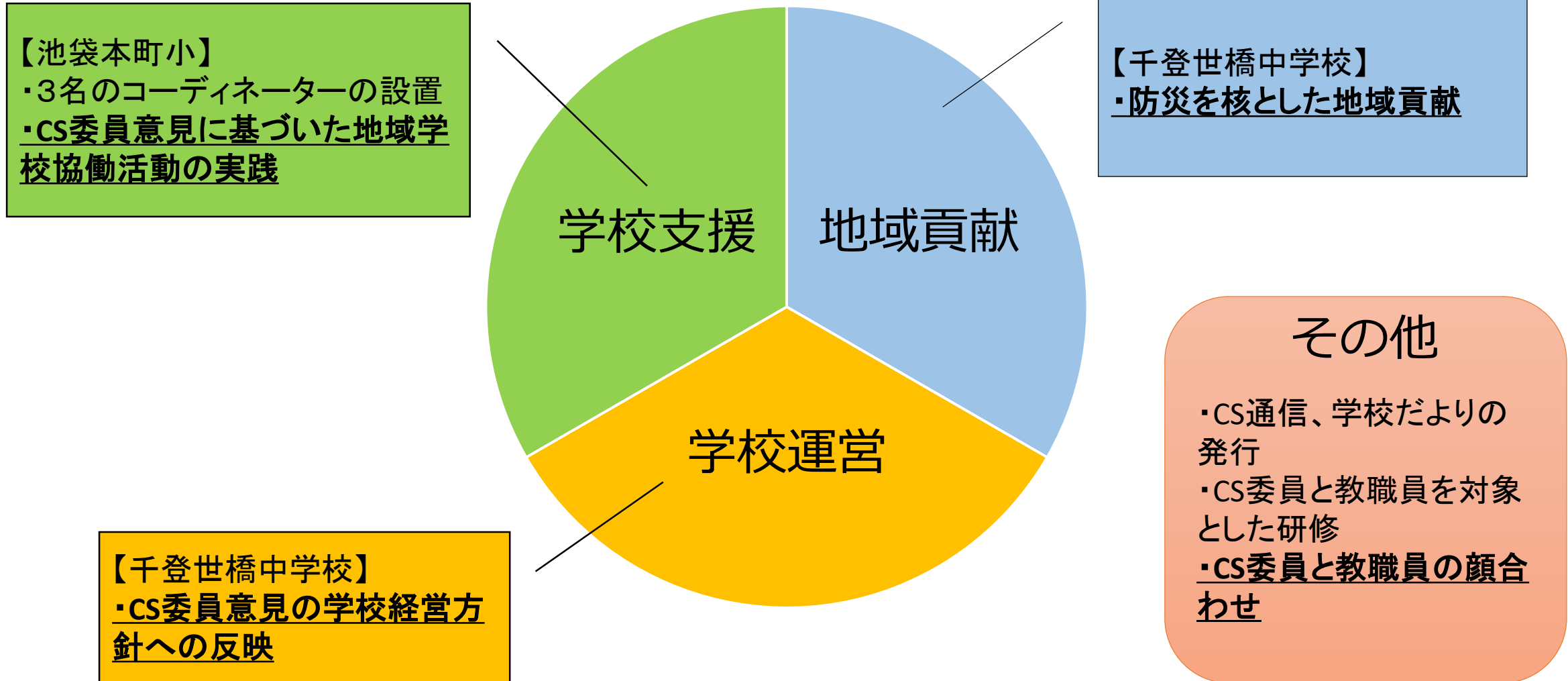


豊島区コミュニティ・スクールモデル事業 概要

			池袋本町小学校	千登世橋中学校
委員			町会長4、保護司2、PTA2、青少年育成委員1、区民ひろば1、民生・児童委員1、保育園長1、施設開放運営委員会1、地域支援組織1、校医1	民生・児童委員3、青少年育成委員2、PTA3、学識1、元町会長1
事務局			校長、副校長、議事説明教職員、スキップ所長	校長、副校長、議事説明教職員
議事内容	元年度	2学期	・CSについて ・今後の予定	・学校状況報告 ・CSの取組 ・今後の活動計画
		3学期	・教育活動報告 ・来年度の予定	・学校状況報告 ・学校評価 ・学校経営方針案について
	2年度	1学期	・学校経営方針の承認 ・教育活動報告	・学校経営方針の承認 ・CSの取組 ・今後の活動計画
		2学期	・CS研修 ・2学期の取組(情報モラル教育、池本学びのサポーター)	・CS研修

※委員の肩書は主なもの

豊島区コミュニティ・スクールモデル事業 実施状況 ①



豊島区コミュニティ・スクールモデル事業 実施状況 ②

学校支援

- コーディネーターを3人選出し、学校支援に繋げた。
- CS委員の意見を受けて、地域との協働による町探検や情報モラル教育などを実施した。
(池袋本町小学校)

地域貢献

- 校長のリーダーシップのもと、防災をテーマに中学生が地域貢献していくビジョンを提示。
- 校長のビジョンをCS委員も共有している。
(千登世橋中学校)

学校運営

- 年度が替わる前に、学校経営方針(案)をCS委員に説明し、意見をいただいた。
- 「多文化理解」の視点を入れてほしいという意見を受け、学校経営方針に反映し、承認を受けた。
(千登世橋中学校)

その他

- 地域の方と教職員の交流の機会として、CS委員と教職員の顔合わせを行った。
(池袋本町小学校)

豊島区コミュニティ・スクールモデル事業 各校委員と教職員の意見

【CS研修アンケートから抜粋した意見】

〈CS委員〉

- 防災訓練で活用したい
- 生徒は地域の人的資源であり、つながりを持つことが重要
- 教職員と意見交換を行っていききたい
- 学校や地域とかかわりを持たない人たちへの広報も必要
- 情報が少ないので、学校と協力したいがなかなか協力できないでいる
- 地域の方の専門性を学校運営に生かしていけるといい
- コーディネーターに負担がかかりそう。役割分担が必要

〈教職員〉

- 防災教育、職場体験、ふるさと学習、専門的な知識を必要とする教育、部活動指導、集団面接などを地域の方と一緒にやっていききたい
- 委員と教職員の相互理解と意見交換・交流が何より一番大事だと深く認識した
- 教員と地域の方々が協力して、いろいろな活動ができると良いと思う
- 「やってもらう」、「やってあげる」ではなく、「共に」の活動が素晴らしい
- 地域の方が学校にたくさん入っていただけるのはありがたいが、個人情報などの心配はある
- 負担を少なくする工夫が必要
- CSは人事面での利点があるだけだと思っていたが、活用方法のイメージがわいた
- 今まで学校運営協議会は何をしているか分からなかったが、理解できた

豊島区コミュニティ・スクールモデル事業 見えてきた課題

- コミュニティ・スクールで何が変わるのか、何を行うのかの意識の共有化
- コーディネーター、地域担当教員の育成
- 教職員とCS委員、保護者、地域との交流の機会の創出
- 会議運営ルール(議事録、傍聴など)の確立
- 学校運営協議会の活動の周知・広報の強化